

# 令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

## －第1回理事会〈総会〉－

### 議事録

日時：令和3年6月25日(金)

午後2時から4時

会場：みなみのかぜ支援学校

司会：小園 T

資料の訂正、理事会資料の P3 2月5日 書面開催と訂正

P8事業計画、P12知的障がい教育研究部会規則、P15ローテーションの後ろにそれぞれ(案)を追加

P14 開催ブロック部会→開催エリア部会に訂正

P16 ブロック部会→エリア部会に訂正

副会長挨拶は時間の関係上省略

#### 1 開会行事

(1) 会長挨拶 みなみのかぜ支援学校 川越 俊彦 校長

みなさん、こんにちは。今日は大変お忙しい中リモートでの第1回理事会となりました。本日の理事会は内容が盛りだくさんになっております。今年度7月27日に予定されています県特研連知的部会日向大会の2次案内について、また知的部会の今後の運営ローテーションのあり方について、さらに8月5日6日に開催されます九特連熊本大会の運営方法など盛りだくさんの内容になっております。協議の中で色々と忌憚のないご意見をいただきながら今後の知的部会がスムーズに運営していけますようにどうぞ協力よろしくお願いします。

本日は2時間程度の開催となりますが、よろしくお願いします。

(2) 本日の日程、配付資料確認

知的部会理事会資料、理事一覧、日向大会2次案内、熊本大会の2次案内、熊本大会計画案、沖縄大会、計6部

(3) 知的部会について 小園 T P1. 2

資料参照。今年度出席していただいた方の中には、初めて理事をされる方もいらっしゃるため、知的部会の組織の全体、方針、及び組織図(P2)について説明。宮崎県特別支援教育研究連合は、ブロック部会と障がい種別教育研究部会から成り立っていたがエリア部会と障がい種別教育研究部会と変更になっている。

#### 2 総会

(1) 令和2年度知的部会事業報告 みなみのかぜ支援学校 小園 T P3, 4

資料参照。昨年度は理事会を年3回実施した。8月2月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催。11月のみ集まって実施した。

第59回全特連研究大会【長崎大会】第54回九特連研究大会【長崎大会】→新型コロナウイルス関係拡大防止のため大会は中止。

- (2) 令和2年度知的部会収支報告 みなみのかぜ支援学校 和田 T P5、6  
資料参照。  
R10 宮崎大会の運営費として宮崎県特別支援教育研究連合からの補助金50000円を宮崎大会の通帳に入れた。
- (3) 令和2年度九特連収支報告 みなみのかぜ支援学校 和田 T P7  
資料参照。  
承認するのであればカメラの前で○を作る。  
全員承認する。
- (4) 令和3年度知的部会事業計画案 みなみのかぜ支援学校 小園 T P8、9  
資料参照。  
10月28日29日和歌山大会は、紙面開催  
11月、2月の理事会は現在は集まっていたが、コロナの関係でオンライン開催になる可能性がある。近くなったら、ミライム等でお知らせする。
- (5) 令和3年度知的部会予算案 みなみのかぜ支援学校 和田 T P10  
資料参照  
収入の部・・・本年度研究大会が開催されるため県教育公務員弘済会より50000円助成金
- (6) 令和3年度九特連収支予算案 みなみのかぜ支援学校 和田 T P11  
資料参照  
小園 T より 承認していただける方は、カメラの前で○を作ってください。  
→全員承認。  
全員承認となったため、予算(案)の(案)を削除  
承認されたので、本日付で負担金案内文書について本校事務局より郵送させていただく。  
特別支援学校は事務室に渡す。  
納入期日は、令和3年8月20日(金)

### 3 第1回知的部会研究大会実行委員会

- (1) 大会実施計画案 日向ひまわり支援学校 飯干 T  
研究大会についてスライドを使って説明。  
本研究会、研究大会開催の目的について説明。  
加盟している小中学校約260校、8校の特別支援学校が加盟している。  
研究大会のコンセプト「学びを止めない」「学び続ける」をスローガンに掲げる。

開催の方法 : オンデマンド

大会主題 : 多様な子どもたちが自分らしく生きるみやぎきの特別支援学校

期日(収録) : 7月27日(火) 約2時間

配信期間 : 7月29日から8月31日まで

研究大会の内容: 講演のみ 東京都立矢口特別支援学校主任教諭 川上康則氏

収録から配信までの流れ：日向ひまわり支援学校で収録→編集データを宮崎県教育研修センター→オンデマンド配信

## (2) 2次案内等について

特別支援教育課→各市町村教育委員会→小中学校へメールを配信済み

特別支援学校には日向ひまわり支援学校より送信済み

教育ネットひむかのHPに知的障がい教育研究部会というリンク先があるのでそこから閲覧可能。

PDFでの印刷も可能である。

確認フォーム入力(兼申し込み)QRコードを掲載、すでに入力済みの学校28校(6/24現在)

視聴=研修 校内研修、グループ研修、個人研修などで実施していただきたい。

理事会の役割(小中学校)

① 所属校の入力後②周知③拡散と地域の小中学校の先生方に研究大会の案内を周知

理事会の役割(特別支援学校)

① 所属校の入力②校内職員への周知③校内研修の実施が難しい場合は、個人研修やグループ研修ができる環境を整えること。

分からないことがあれば飯干Tまで。

目標(研修実施校・視聴率)

加盟校の登録数目標70%(180校)→30%(80校)を目指す。現在は28校。視聴する教職員の数は500人を超えている。以前の300人にしか出席できなかった研究大会出席人数を超えている。

## 4 その他

副会長より (種子田校長)

お願いになりますが、本校の実行委員の方から熱い思いを語らせていただいた。コロナ渦において研究大会をどのように開催していくかということで、色々検討させていただいたところです。昨年度も申し上げさせていただいたのですが、1番の目的は研究大会を通してたくさんの方に特別支援教育を学んでいただいて、得たものを子どもたちに返すことができればと思い、研究大会では集まることができないのでオンデマンドという形での開催に至ったところです。今回は1番最初に案内が全県下の小中学校に全部行き渡るように特別支援教育課の方をお願いしたところです。5月31日の日に特別支援教育課主催の各市町村就学指導委員会があり特別支援教育担当の方が集まって話し合いがありました。その時に各市町村の教育委員会の方々に2次案内を紹介していただきました。この大会の趣旨とこの大会の思いを伝えていただいてご理解をいただいたところであります。そして、後日特別支援教育課の方から各市町村教育委員会の指導主事の方に文書を配布してそこから各市町村の全小中学校に配布していただくという手順になっております。おそらく各市町村の小中学校の方にはこの2次案内は届いているんじゃないかなと思っております。

理事の先生方にも協力していただいて紹介していただきたいのでよろしくお願いします。何よりもこの大会の趣旨というのが普段なかなか研究大会とか講師の先生の話の聞けないので、一人でも多くの先生がこの講演を聞いていただいてこれからの特別支援教育に活かしていただきたいというのが1番の目的であります。講演は2時間ですがシステムでいくつかに分けて。時間をうまく使いながら研修に使えらと思いますので、ぜひ登録していただいて研修に活かしていただければと思います。

一人一人が学んでいただいて成果があがればと思っております。お困りの点や分からない点がありましたら本校の方に連絡をお願いします。

補足 日向ひまわり支援学校 飯干 T より

・研究大会の時間が長いという問い合わせがきている。それぞれ各学校の実態に応じて途中止めたり前半職員研修、後半は個人研修にする等してアイデアを出して実施している。理事の先生方には知っておいていただきたい。

・今回の大会は、専門性が高いのではないかと問い合わせがあった。小中学校の先生方に光村図書やWEB マガジンを見ていただけるといかに小中学校の現状に分かりやすい物になっているのかということを理解していただける。

(1) 知的部会規則 みなみのかぜ支援学校 小園 T P12、13

P12、P13 を見ていただいてご意見ご質問等ありましたらこの場でも出していただきたい。

規則に(案)はついていませんが、コロナが収束しても今後の理事会について集まって開催した方がいいのか今回のように ZOOM で開催した方がいいのかどちらがいいのでしょうか。

〈質疑1〉延岡しろやま支援学校 水野 T

内容的にはオンライン開催で問題はないと思うが、オンライン会議が中心になっていくと県特研連の補助金について送金の手続きをしていただかないと会計が始まらない。昨年度も立て替え担当の方に迷惑をかけた。

特連からの補助金

→みやざき中央支援学校との確認 送金の方法 直接会わなくてもお金のやり取りができるように確認する。

理事会オンラインでの開催について

〈回答〉高千穂中学校 藤野 T

遠いのでリモートでやっていただけると助かる。

〈回答〉えびの市立真幸小学校 大木場 T

内容的にも問題がないのであれば ZOOM での開催で問題ない。

→お金のやり取りについてみやざき中央支援学校と確認をとって今後も ZOOM で開催予定。

(2) 知的部会運営ローテーション P15

・県特連の研究大会形態について

R2 年度メイン会場はるぴなすが午前中の部講演会を中心に開催

午後の部、各障がい種別で実施。知的分科会は都城きりしま支援学校が開催予定。

・P14 についての説明

本来ならば R5 年に知的部会は都城きりしま支援学校の担当であったが、県特研連のローテーションに組み込んだ方がスムーズにいくということで、都城きりしま支援学校の校長の承諾を得て R4 年度に知的部会を実施することになった。

・みなみのかぜ支援学校 川越校長より

知的部会につきましては、担当の学校が夏研究大会をすると非常に負担が大きということもありましたので、県特研連全体の組織の見直しよりも先駆けて知的部会につきましては、2年に1回のローテーションというのを作りましてこの準備を進めてきました。したがって県特研連の知的部会につきましては、令和2年3年に日向ひまわり、令和4年5年に都城きりしま、という形で2年に1回開催すると

というような形を確認しておりました。ところが県特研連の組織全体の見直しがみやざき中央支援学校を中心に検討され、県特研連の全体もローテーションと見直しをする必要があるということで2年に1回の大会を開催するということになりまして、知的部会も2年に1回と県特研連の2年に1回とずれてしまったわけです。したがって、知的部会に関しましては、R2年3年が日向ひまわりが知的部会の研究大会をするのですが、県特研連全体については、R4に児湯るぴなす支援学校が午前中の講演会、そして午後は障がい種別の研究大会をするということになりましたのでR4年の午後の知的部会をどうするのかというのを都城きりしまあるいは日南くろしお、みなみのかぜ、みやざき中央支援の校長先生といろいろご意見を交換させていただきまして、全体の県特研連の動きに合わせた方がスムーズに行くのではないかとということで変則的なローテーションに組み直したということです。

〈質疑〉都城きりしま支援学校 片平 T

県特連の研究大会と知的部会の研究大会が一つになるというイメージだったが、そういうことではなく同日開催はするけれども午前と午後で別大会が行われるということですか？

→そういうことです。(小園 T)

ということはR4年度は県特研連の開催が児湯るぴなす支援学校、メイン会場も児湯るぴなす、午後は別会場で知的部会の大会を開催するという認識でよろしいか？

→そういうことです。(小園 T)

〈質疑〉延岡しろやま支援学校 水野 T

R4年度に知的部会研究大会を開催する都城きりしま支援学校は今年度中に準備するとなるとお金の動きが出てくることになる。なので、大会運営費を動かすためにはR3に都城きりしまの名前を入れておくべきでは？また、県特連ローテーションを見てR6延岡しろやまが県特連担当なので、大会準備期間のR5年から大会運営費としてお金を動かすことができるのか。

→知的部会に関しては、校長の了解を得たので知的部会ローテーション企画運営のR3に都城きりしまの名前を入れる。県特連は、みやざき中央支援学校が事務局なのでこちらでは回答することができない。(小園 T)

〈質疑〉都城きりしま支援学校 片平 T

水野 Tの言われたことは都城きりしま支援でも不安に感じていた。都城きりしまとしては来年どの程度準備をしてどの規模での開催ができるか不安な部分があるが、できただけのことをしていきたい。ただ都城きりしまの一存では決めがたい。知的部会の総意が得られた上での動きになるのかなと思っている。そうしたことも今日の理事会で確認をさせていただきたい。

→準備期間がないなかでの開催になるが他の先生方ご意見はないでしょうか？(小園 T)

〈意見〉日向ひまわり支援学校 飯干 T

2年に1回のローターが決まっていたが、コロナの関係で2年間の空白ができています。先生たちが学べないという環境を作ってしまった。今回申し込まれているたくさんの先生方が特別支援学級を持たれて、みんなで学びたいという気持ちで大会に申し込んでいる。この現状をみたときに空白の時間を作ってはいけないと感じた。R4年に知的部会を開催すると翌年は学びの場がないということを決まっていることとはいえ事務局には知っておいてほしい。また11月の理事会で都城きりしまは提案をしないといけないので急ピッチで進めていく必要がある。

〈意見〉都城きりしま支援学校 片平 T

不安ではあるが分掌部会を通して検討。最終的には校長の意向を確認したらこの流れでということなので、どの程度できるか分からないが現在やっている校内研究の発表になるかもしれないし、講演会のみになるかもしれない可能性がある。都城きりしまの一存では決めがたいので他の先生方の意見も聞きたい。

みなみのかぜ支援学校 川越校長

知的部会が先行して準備をしていた。県特連があとから2年に1回開催を始めたためにローテーションがずれてきた。そのため知的部会のローテーションの見直しを提案させていただいた。従来通りの2年に1回のローテーションがいいのであれば、問題はR4の児湯るびなす支援学校が行う県特研連の午後の知的の部はどこが企画運営していくのか。案を出してほしい。

宮崎東小学校 富永校長

確認ですが、P15にある県特研連のローテーションでR4児湯るびなすが開催になっているが午後の部は、障がい種別で実施しているので規模を大きく考えず、例年やっているものを無理のない範囲でやっていただけたらと思っている。小中学校の特担の先生方にも学びの場となっている。日向ひまわりの研究大会も自分たちの研修の時間に取り組むことができるのでありがたい。通級学級での指導に悩んでいる先生方がいらっしやるので、学んでいただきたい。大きい物として捉えず、いつもやっていることをやっていただけたらと思っている。

〈質疑〉延岡しろやま支援学校 水野 T

P15の上の段、メイン会場は児湯るびなす 午後の部は都城きりしまなのできりしまリモート会場となる？延岡しろやまで例えると、延岡しろやまリモート会場になり他の学校の先生方も集まって見ていただく。情緒、難言、肢体不自由の障がい種別校も本校に会場設定して参加できると理解して良い？  
→記載されてある学校がリモート設置の中心となって実施していく。他の学校もリモートで見ていただくことになる。(小園 T)

〈意見〉児湯るびなす支援学校 松下 T

R4の午前の部について教務にエリア部会の担当がいる。今から引き継ぎをするのでほとんど進んでいない。職員には周知しているが動けていない。

→負担のない無理のない範囲で研究大会をすすめていければと思っている。(小園 T)

〈意見〉延岡しろやま支援学校 水野 T

知的部会の2年ごとの開催を維持していった方がいい。県特連とのずれに合わせながら2年ごとに開催がいい。R6県特連開催校延岡しろやまとしては、支援学校が企画・運営として名前が挙がっている。やはり小中特研のニーズを拾いながら各地区のニーズに合わせた研究大会にした方がいい。なので支援学校のみで進めていくのではなく、小中特研から吸い上げながら地域の先生方に還元できるようにしていった方がいい。R5から西臼杵としっかり連携をとりながらそれぞれの先生方のニーズに合ったものを県特連大会として用意すべきだと思う。

→記載しているローテーションの開催の承認を得る。(小園 T)

(3) 令和3年度以降の全・九特連の提案者等 P16

小園 T より エリア部会が R4 から空欄になっている。決まっていたら教えていただきたい。

→宮崎東小学校 富永 T

R4 日向 R5 宮崎 R6 串間 R7 西諸県 R8 延岡 R9 宮崎 R7 備考の欄に西都

→三股中学校 小野 T

R5 串間 R6 宮崎で訂正

(4) 九特連熊本大会について

・2次案内について(資料参照)

8月5、6日の開催される。

オンラインと youtube を併用して実施(熊本大学教育学部附属特別支援学校がホスト)

第6分科会：新田小中学校 長友三織先生

第7分科会：みなみのかぜ支援学校 長友さくら先生 お二人が発表される。

\*分科会については、事前質疑への応答に変更。運営の要項を確認。

\*九州全部で取り組む予定なので機器の調整が必要。

・参加方法について

各学校で事前申し込みをお願いします。期日7月1日～21日までに

・申し込み方法については資料参照

・後日2次案内について封筒に入れたものを理事の先生方宛に郵送する。

(5) 九特連沖縄大会について

大会主題(仮)、日程候補(4つあがっている)記念講演(案)、全体会場(案)公開授業、分科会会場について  
資料参照。

みなみのかぜ支援学校 川越校長より、

長時間にわたりご意見等だしていただきありがとうございます。コロナ禍の時代にあって新しい学びをどう保証していくのか先生方の研修のあり方を含めて集合型の全員集まったの研修からオンデマンドを使って幅広く多くの人に研修を行っていただく形式に様変わりしようとしています。今回日向ひまわり支援学校の飯干先生を中心に、多様な子どもたちが自分らしく生きる宮崎の特別支援教育を目指して、たくさんの先生方が学びをとめないという研修のあり方を模索してこのような形を作っていただきました。本当にありがとうございます。できるだけ多くの方々にオンデマンドで研修に参加していただき、この学びを2学期以降の実践につなげていければいいなと思っています。また県特研県連の組織そのもののあり方について、様々なご意見をいただきありがとうございました。知的部会の方が先行して2年に1回のローテーションを進めてきましたが県特研連全体の大きな組織も見直しが必要ということでこのような運用のあり方になったということでございます。なかなか期間も短い中で準備をするのは大変だと思いますけれども、できる範囲のやり方でまた地域のニーズを拾っていただいて、そのエリアならではの研修会をしていただければいいのかなというふうに思っております。また今後ご意見等をいただきながら知的部会がより一層発展していきますように、先生方お力を貸していただければと思います。本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。